

## 綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

# JCI 福島 JC ニュース

FUKUSHIMA  
JUNIOR CHAMBER  
OF COMMERCE

—福島青年会議所新聞—

福島青年会議所新聞

WEB版  
Vol.509

発行責任者 後藤 洋孝  
編集責任者 丹治 史博  
発行日：2019年3月

## 2019年度スローガン

# 紡げ!! 未来を!!

～今、私たちができることを～

理想の社会を創造する為に一人ひとりが当事者意識を持ち、  
今、自分が出来る事を精一杯やることで、明るい未来へ繋がることを確信する。

### ■はじめに

福島青年会議所は、明るい豊かな社会を目指し未来に繋げるべく、地域の魅力や文化の発信、郷土愛の醸成や未来への希望を創出するべく活動して参りました。

我々が、潜在的な魅力や伝統文化など「福島」のイメージを強く発信し続けることで、「ふくしま」に住まう人々や故郷とする人々の誇りとなり、「ふくしま」の未来を担う人々がより自由に未来へ羽ばたくことができることを確信しております。

そして、我々の「福島」を誇りとする熱い想いを市民に浸透させ、市民から「せかい」へ拡散することで、「せかい」の人々が思う「ふくしま」に対する認識をより良いものへ変革することが出来ると確信しております。

福島青年会議所が、明るい未来へ紡ぐべく、新たな地域の課題を見だし、活動していくためには、これまでの活動を踏襲しつつ、今ある地域の課題に向き合い、持続可能な解決策を模索し、子ども達の希望、地域の誇りを紡ぐべく運動を展開していかなくてはなりません。



第56代理事長  
後藤 洋孝

### ■未来に紡ぐために

福島青年会議所が運動を継続させていくためには、未来の同志へ想いを紡いでいく必要があります。そのためには、活動のみならず、想い、メンバーの品格を含め、市民に広く周知し、地域にとって必要な団体であることを発信しなくてはなりません。

まずは、会員自身が青年会議所運動の魅力を理解し、積極的に活動するべく想いを醸成させるために、メンバー同士が交流する機会を充実させて参ります。そして、身近な家族や友人から「JCってカッコいいな」と評価してもらえるように、会員一人ひとりが己を律し、品格ある行動と発信を行い、自らの学びのみならず、後輩へ教えられる人財へとメンバーの意識を変革することで、地域の人々が自ら参加したくなる組織へ成長させていきます。

### ■子ども達のために

「福島」の子ども達が将来、様々な「せかい」へ羽ばたき活躍してゆく時、自分が育った土地の思い出や様々な経験、自らが育った地域の魅力が、彼らを支える誇りとなると確信しております。

地域を子ども達の誇りとするためには、子ども達が地域の魅力や文化に触れる機会を創出し、地

域が子ども達の自慢となるよう、郷土愛を醸成しなくてはなりません。

そして、無限の可能性をもった子ども達が未来の自分を見つけるため、未来に繋がる、「きっかけ」となる、機会を創出し、将来進むべき「せかい」を見いだす一助となる運動を展開いたします。

生まれ育った「福島」が未来を担う子ども達の夢を自由に掴み取る推進力となり、子ども達の誇りへと変革させるために、子ども達の未来を紡ぐ運動を推進して参ります。

### ■誇りを紡ぐために

多くの祭事は、そこに住まう人々の誇りとなり、郷土愛を醸成する一因となっています。

しかしながら、どんな伝統や文化もそこに係わなければ、愛着も想いも生まれません。

我々が、伝統文化と人々を繋ぐパイプ役となり、古くから地域に根ざす熱き想いを継承し、「暁まいり」、「わらじまつり」、「わらじつくり」を一つに紡ぎ発信することで、祭りと地域の人々を繋ぎ、祭りを人々の誇りにできると確信しております。

そして、地域の人々を更に巻き込み、郷土に対する想いを今以上に醸成するために、伝統や格式、固定概念という壁を乗り越え、市民のための「おらがまちの祭り」として、次の世代、さらに次の世代へ脈々とこの誇りを伝承していけるよう運動を展開して参ります。

### ■地域の魅力を紡いでゆくために

そこに住まう人々にとっては「あたりまえ」である魅力が「福島」には多く存在します。「福島」を魅力あふれるまちとして、発信してゆくためには、「あたりまえ」のこととして意識の中に埋没してしまった地域の特性、季候、風土、産業、歴史、街並みなどの魅力を掘り起こし、事業を通じて発信していくことで、「おらがまちの自慢」としなくてはなりません。

また、これまでに掘り起こした魅力を「あたりまえ」に戻さぬよう、地域へ発信し続けるために、市民と共に事業を持続可能な課題解決策として更に地域へ浸透、定着させなくてはなりません。

さらに、地域で活動する団体として、被災時の経験を活かし、心構えと即時対応可能な体制を整え、行政や関係団体との連携と地域の運動へ積極的な参画することで、地域へ貢献して参ります。

### ■メンバーを紡ぎ、地域と繋ぐために

時代の流れと共にメンバーが青年会議所へ求めるニーズも変化しており、組織としても意識変革を求められていると感じております。慣例や固定概念にとらわれず、新たな試みを加え、時代に対応したメンバー間交流や、資質を向上させる機会を創出、提供することで、JCを楽しめるメンバーを増やし、福島青年会議所が所属する意義のある組織として成長させなくてはなりません。そして、福島青年会議所メンバーを結束させ、愛すべき「福島」の課題解決のために一丸となって取り組める組織を構築して参ります。

また、我々は地域と共に活動しており、その繋がり方も時代と共に変化している中で、時代に即した地域との効果的な繋がり方を模索し、福島青年会議所を更に身近に感じてもらえるよう、我々の活動と想いを発信して参ります。

### ■継続事業から持続事業へ

青年会議所は、地域の問題に対し向き合い解決する手法として事業を展開しています。

事業を青年会議所が求める持続可能な課題解決策とするためには、課題解決策を市民へ落とし込み、市民自らの手によって維持、継続出来るようしなくてはなりません。現在継続している、円熟した事業を市民へ繋ぐべく、事業内容を整備し、継続事業を市民の手による持続事業へ移行して参ります。

### ■結びに

我々は「福島」というバトンを希望に満ち溢れたものとして、これから「せかい」に羽ばたく未来の人々へ繋げなくてはなりません。

文化を誇りに、魅力を自慢に醸成し、「福島」に住み暮らすことが自慢と誇りとなるために、メンバー全員が当事者意識を持ち、理想を探求し続

け、地域の課題に向き合い、解決してゆくことで、「福島」を最高のプレゼントとして、未来の人々へ紡ぐことが出来ると確信しております。

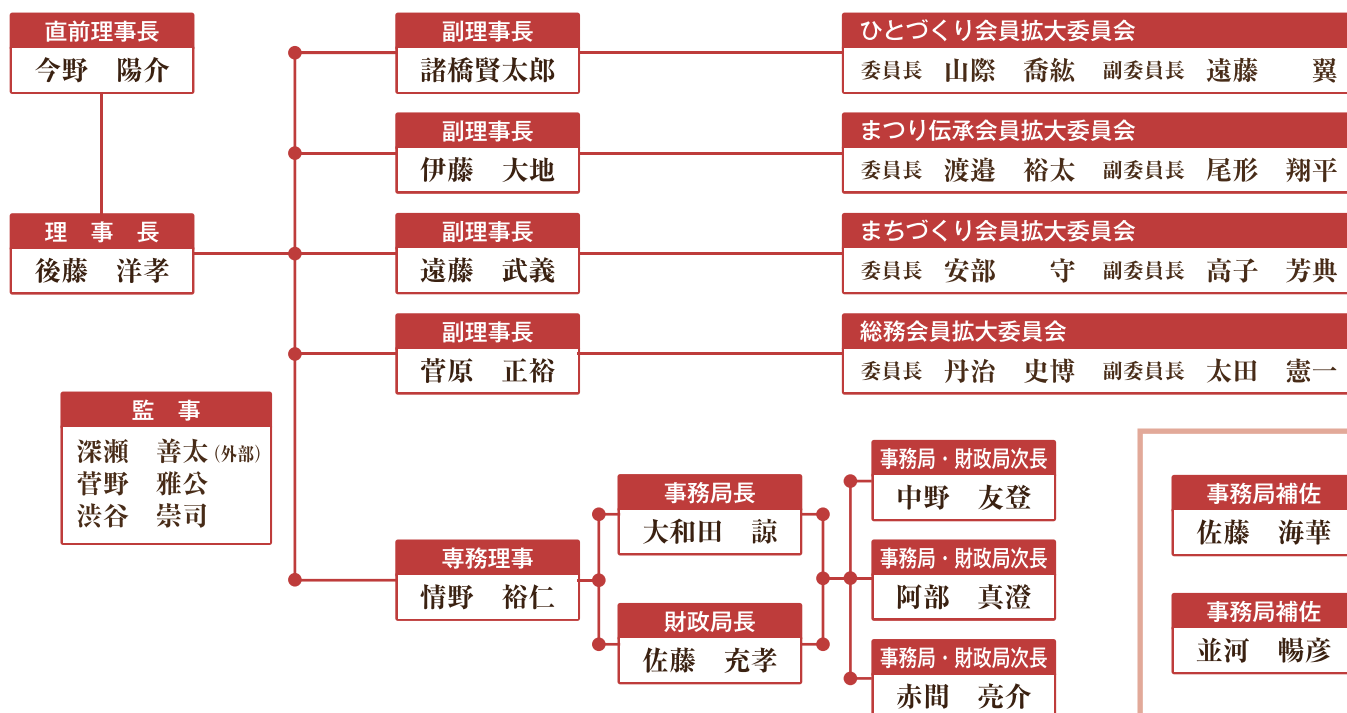
この「福島」に住める人々のために、子ども

達のために、そして自分たちのために未来に紡ぐ運動を展開していくことをお誓いし理事長所信と致します。

## 人間が想像できることは、人間が必ず実現できる by ジュール・ヴェルヌ



### 2019年組織図



# ひとづくり会員拡大委員会



## ■委員会スローガン

子ども達たちのため・  
ふくしまのため・  
自分のため やったれ!!

1. 児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業の実施
2. 会員拡大運動の実施 拡大目標 5名
3. 10月例会の開催
4. 報告書の作成

ひとづくり会員拡大委員会は、子ども達が夢中に、経験が自信に、自信が自慢に出来る事業を通じて、様々な経験や刺激を提供します。一人ひとりがふくしまへの郷土愛と将来の夢を抱けるよう応援、育成しふくしまの子ども達が自分の故郷を自慢できる社会の実現をします。

副理事長 諸橋賢太郎

委員長 山際 喬紘

副委員長 遠藤 翼

委員	阿部 知浩	佐藤 卓宏
	尾形 彰彦	澤田 健
	SAINBUYAN	高野 智宏
	ODBAYAR	高橋 貴之
	酒井 隆弘	高橋 美博
	坂下 真愛	竹内 潤
	坂本 幸司	山尾 祥大
	佐藤 一樹	

# まつり伝承会員拡大委員会



## ■委員会スローガン

まつりのため・ふくしまのため・  
己のため・・・やったる!

1. 福島の伝統文化を伝え故郷の魅力を発信する事業の開催
2. 地域団体とのまつりを活かした交流の推進
3. 福島わらじまつりの発展に関わる事業への参画
4. 会員拡大運動の実施 拡大目標 5名
5. 暁まいり福男・福女競走の実施と移行準備
6. 9月例会の開催
7. 報告書の作成

「わらじまつり」が全国的に認知され、福島を代表する祭りとなりました。しかし、時代の経過と共に地域の繋がりが薄くなり、まつりの由来やまつりの歴史の意識が失いつつあります。委員会事業を通して市民一人ひとりが「わらじまつり」の歴史や文化に触れ、福島のソーシャルストックである「日本一の大わらじ」を日本、そして世界へ発信すべく、関係団体と協力し、故郷の祭りである「わらじまつり」や伝統ある「暁まいり」を開催し、福島を盛り上げて参ります。

副理事長 伊藤 大地

委員長 渡邊 裕太

副委員長 尾形 翔平

委員	安齋 源	丹治 久仁
	尾形優一郎	番匠 啓太
	菅野 太喜	福井 誠
	菊池 翔太	藤井 守
	清水 達馬	柳沼 綾
	白坂 洋夢	吉田 潤平
	関谷 竜也	

# まちづくり会員拡大委員会



## ■委員会スローガン

やるからには全力で！  
～すべてを楽しくやっちゃおうよ～

1. 地域社会の健全な発展を目的とした事業の開催
2. 災害時支援相互協力協定における対応と準備
3. とうろう流し花火大会の設営・運営・参画
4. 信夫山パークランニングレースの実施と移行準備
5. 会員拡大運動の実施 拡大目標5名
6. 2月例会の開催
7. 報告書の作成

我々の住むまち福島は、豊かな自然や豊富な果物が有名なまちであり、また、伝統文化が古くから息づいた魅力あるまちでもあります。しかし、その素晴らしい魅力や平穏な生活が市民にとってはあたりまえになっております。身近にある福島の美しい自然や伝統文化は、福島の財産であり、その財産に市民一人ひとりに気付いてもらうためにも、強い絆で結ばれた同志と共に、福島の魅力を掘り起こし、それを次世代へ繋げることにより、明るい未来を紡ぐまち「福島」を実現します。

副理事長 遠藤 武義

委員長 安部 守

副委員長 高子 芳典

委員	阿部 敏幸	神保 卓朗
	石郷岡 武	土屋 令雄
	小林 秀平	仲村 周将
	斎藤 秀人	並河 暢彦
	佐藤 海華	山本 英佑
	佐藤 秀真	

# 総務会員拡大委員会



## ■委員会スローガン

そして輝く ULTRA 総務 Hey!  
～やったれ! Attractive Outgoing!～

1. 総務に関わる一切の業務及び諸会議の議事録作成
2. 福島JCに関する広報活動(対内・対外を含む)
3. 例会の設営・運営1月・3月・4月・5月・6月・7月・8月・11月・12月
4. 新年会・創立記念祝賀会・卒業式の開催
5. 全国JCネットワークとの交流
6. 会員拡大運動の実施 拡大目標5名
7. 報告書の作成

今年度で56年目を迎える福島青年会議所において、継承する歴史を発展的に紡いでいくために、LOM運営を堅実に支え、地域の魅力を最大限に表現する福島青年会議所の事業を効果的に発信していくことに奮励してまいります。まずは、会員間の交流を深め、個人々の成長を促すために、懇親や学びの機会となる例会を会員が出席したくなるように楽しさも加えて設営し、組織の団結力とJC活動の質を高めます。さらに、福島青年会議所の事業が地域のイメージアップに繋がる充実した内容で実施される助けとなるべく、魅力的な情報発信の基盤づくりに力を入れます。また、組織の歴史を紡ぎ地域での活動を円滑にするために、新年会や創立記念祝賀会を開催し、JCの強みでもある世代を超えた絆を強固にします。そして、組織の発展とリレーションに貢献された卒業生に敬意と感謝の気持ちを伝えるために、厳粛で思い出に残る卒業式を開催し、卒業生の晴れやかな門出を祝う場を設けます。さらに、JC運動の効果を高め継続していくために、共に活動する会員を増やし、拡張的なJC運動を継続します。地域の方々に求められ続け、一員であること、所属していたことがより誇らしく思える組織となるように、総務会員拡大委員会は、福島青年会議所の事業の魅力的な発信に力を尽くし、「せかい」の多くの方々に地域の魅力や文化を伝えることで、明るい未来を紡ぐまち「福島」を実現します。

副理事長 菅原 正裕

委員長 丹治 史博

副委員長 太田 憲一

委員	浅野 紘太	齋藤 栄太
	井上健太郎	佐藤 大吉
	菅野 誠也	芝田 裕哉
	菊地 幸治	新村 隆文
	駒田 晋一	野尻 伸吾
	紺野 秀元	渡辺 和典